

# ニューヨーク大学の新たな試み

## ITP Camp 2012 の報告

### A report on ITP Camp 2012

尼岡利崇

AMAOKA, Toshitaka

#### 要旨

ニューヨーク大学 Tisch School of the Arts の Interactive Telecommunications Program (以降, ITP とする)において夏期休暇中に1ヶ月間の期間で開催される ITP Camp という試みがなされており, 私も参加することが出来たため報告を行う。今年で3回目になる ITP Camp は体験型の短期スクールであり, 開催目的, 実施・運営方法, 参加対象者がユニークである。この試みは, 地域貢献, 開かれた大学等の観点から日本の大学でも参考になる点が多く, 今後の新しい大学のあり方を提案できると考え, ここに報告する。

#### 1. はじめに

ITP Camp は, “UN-UNIVERSITY”(開かれた大学)と位置づけられ, 社会人, 学生等様々な参加者を募り, 1ヶ月通し「何かを作り出す(生み出す)」ための考え方や活動場所の提供を目的としている。ITP Camp というその名称からもわかるように, 参加者がそれぞれの目的のために ITP Camp に参加し, その環境を楽しみ, 協力し合うことを目指している。また, 多様な参加者によって形成されるコミュニティ内でのアイデアの共有, 協力, 批評によって触発し合い, 何かを生み出す動機付けとなることもこの試みの特徴の一つである。

上記に「何かを作り出す(生み出す)」と表現したが, これは研究あるいは制作等の発案から実際の研究, 制作までの幅広いものを指す。ITP Camp では情報技術分野のセッションが中心となるが, そのほかにバイオテクノロジー等のセッション(講義)も用意されるなど非常に幅広い分野を網羅している。さらに, 参加者が持つ専門性が加わるため非常に多様かつ複合的な研究や制作がなされる。このような理由から, 「何かを作り出す(生み出す)」という表現を用いた。

ITP Camp の目的は, 以下の4点である。

- ・物を作る(考える)きっかけの提供
- ・物を作る(考える)場の提供
- ・情報交換の場の提供

・コミュニティーの形成

ITP Camp では、開催されるワークショップや授業をセッションと呼ぶ。これは、ITP Camp は大学の正規の授業とは異なり、よりオープンな環境構築を目指し、講師、参加者間の自由な発言、ディスカッションを行う場として位置づけられているため、セッションという名称を使用している。さらに、講師をセッションリーダーと呼び、そのセッションをリードする役目であり、教師ではないという差違を明確にするため、この名称を使用している。

**2. ITP Camp の概要**

**2. 1. 目的**

ITP Camp では、社会人や学生等が週末と平日の夜に ITP でプロジェクトを制作し、セッションを通じて先端の情報に触れ、そして広い分野からの参加者と議論、協力、そして批評し合うことを目的とする。

**2. 2. 期間及び場所**

期間：2012年6月1日～2012年6月30日

場所：4th floor of 721 Broadway New York NY (ITP)

主な参加者が社会人のため、平日のセッションは夕方以降、週末は11時以降に行われる。

**2. 3. プログラム**

表1にITP Camp で開催されるセッションの分野とセッション数を示す。

表1 開講セッション分野とセッション数

セッション分野	セッション数
フィジカルコンピューティング	15
ファブ리케이션	29
プロジェクションマッピング	4
インタラクション技術	7
インタフェースデザイン	7
モバイル	5
バイオテクノロジー	3
ネットワーク	6
ビジネス	3
コンセプト	20
3Dモデリング	3
ブレインストーミング	3
サウンド	2
基本技術	17
機材・機器の取り扱い	13

## 2. 4. 参加方法

申込み：ウェブサイトの申込みフォームで申込みを行う。

支払い：ウェブサイトの支払いページで支払う。

参加費：参加費は、以下の通りである。

4 週間：\$1500          3 週間：\$1200(\$400x3)  
2 週間：\$900(450x2)    1 週間：\$500

また、ITP 卒業生は 50%ディスカウントを受けられるなどのシステムが設けられている。

## 2. 5. 参加者

社会人、学生、ITP 卒業生等を対象者とし、2012 年度は、米国国内はもとより、ブラジル、カナダ、ベルギー、中国等世界各国から約 70 名程度が参加した。

## 3. ITP Camp の運営方法

運営は運営責任者の下、カウンセラー、セッションリーダーによって行われる。また、専用ブログによってスケジュールや必要情報等を管理共有し、メーリングリストによって参加者同士のコミュニケーションを促進することで日々の運営は行われる。

### 3. 1. Counselors : カウンセラー

カウンセラーの業務は以下の通りである。

- ・機材・機器の説明
- ・機材の貸し出し管理
- ・授業補助
- ・授業外の時間のチューター
- ・プロジェクト（研究、制作）へのアドバイス
- ・Happy Hour の準備、片付け
- ・教室の割り当て

カウンセラーは、ITP の在学生在が担当し、ITP Camp の実働スタッフとして日々の運営を行っている。カウンセラーは、平日は授業開始時間の 1 時間前の 15 時頃から勤務に入り、その日開催されるセッションの教室の割り当てを行う。また、参加者に対するセッション外での技術的なサポートからアイデアのディスカッション、機材使用のサポートまで、非常に幅広い業務をこなす。会期中は、フロアにカウンターが用意されカウンセラーが常駐し、勤務中には図 1 のように緑色のパーカーを着用し、着用中は勤務中であることを示している。

### 3. 2. Session Leaders : セッションリーダー

ITP Camp においてセッションリーダーは、3つのタイプに分けられる。

- ・運営側から依頼されたセッションリーダー
- ・参加者による自主的なセッションリーダー
- ・カウンセラーが勤めるセッションリーダー

まず、会期前に事前に運営委員から依頼されるセッションリーダーについて説明する。これは、通常の授業と同様で、運営側から必要と思われるセッションがあらかじめ用意されて

おり、参加者は事前にどのようなセッションがあるかホームページで確認することが出来る。これにより、ITP Camp で用意されているセッションを事前に知ることが出来、ITP Camp への参加の判断材料となる。これらのセッションにより、運営側からの方向付けが行われる。セッションリーダーは、ほぼ外部講師で構成されており、現在各分野で活躍している ITP 卒業生がセッションリーダーとして多くのセッションを担当している。



図1 ITP Camp カウンターと勤務中のカウンセラー

図2は、ITPの卒業生 Paul Rothman 氏がオープンソースで開発・販売している littleBits という電子モジュールキットを使ったワークショップの風景である。2012年度は2名の専任教授がセッションを開催しており、図3は Dan O' Sullivan 教授による Kinect を用いたコンピュータビジョンのセッションの様子である。

運営側から依頼されるセッションリーダーの割合は、常勤教員 10%、ITP 卒業生 60%、それ以外 30%となる。この比率から、外部講師を多く取り入れることにより現在の各分野での新しい動向を取り入れたセッションを提供しようという意図が読み取れる。

次に、参加者による自主的なセッションリーダーについて説明する。参加者は社会人が大多数を占めるため、幅広い分野から専門性を持って参加している。そこで、会期中参加者自身でスケジュールの空いている日時にセッションを開講可能なシステムになっている。今回参加者により開催されたセッションは、10セッション程度であった。

最後に、カウンセラーがセッションリーダーを務めるセッションについて説明する。カウンセラーは、主に機器、機材などの取り扱いについてのセッションを担当している。ITP には、各種加工機があり、ITP Camp 参加者は、機器を自由に使用できる。危険を伴う機器もあるため、事前に参加者はカウンセラーによって開催されるセッションに参加し、それら機器に関する取扱説明を聞いた上で確認テストを受け、その紙面にサインすることで、加工機等の使用が許可される。これにより、それ以降は自由に機器を使用可能となる。更に、カウ

セラーが参加者の要望を受け、多くのセッションが追加開講された。その多くは、プログラミング入門、3D プリンタ入門など、多数の参加者が興味を持つ技術や分野の導入となる内容のセッションであった。



図2 Make Something That Does Something with littleBits の風景



図3 Kinect Hacking セッションの様子

### 3. 3. Website :ウェブサイト

ウェブサイトは登録した参加者が自由にアクセスできるように Wordpress を使用し構築され、参加者の情報収集、情報共有、そしてスケジュール決定のための重要なツールとなって



上記の物作りに関する機器は、Physical Computing Room と呼ばれる電子工作やファブ리케이션に特化したスペースに設置されており、いつでも使用可能である。カメラやコンピュータなどは、フロアに貸出カウンターが設置されており、そこで貸し出されている。

### 3. 5. 特徴的な運営方法

ITP camp の特徴的な運営方法として、次の2点が挙げられる。

- ・柔軟な参加方法
- ・コミュニケーションの場を提供するための工夫

ITP Camp は、週単位で申し込みが可能であるため、最初の1週のみ参加者や1, 3, 4週で参加する者等、それぞれの都合、セッションのスケジュールに合わせ非常に柔軟な参加が可能である。

また、夜間と週末の授業が中心となるため、平日18時頃にスナック、果物、飲み物が提供されほとんどの授業が終了する21時には、アルコールが振る舞われ参加者同士がコミュニケーションを図りやすい環境の提供を行っている。週末は、図5のようにベーグル、コーヒー等の軽食が11時頃から準備されている。また、前述した柔軟な参加方法により毎週新規参加者がいるため、毎週土曜日には軽食をとりながらこれまでの参加者は進捗状況等、新規参加者は各自の専門と興味のある分野や研究や制作のアイデアなどを話し合う場が設けられている。



図5 週末のラウンジ風景

毎週金曜日は、外部から講演者を招き、18時頃からビールを飲みながら講演を聴くという非常にオープンな環境が提供される。ITP では通常の学期期間中の毎週金曜日に18時から外部講師を招き飲食が振る舞われるが、ITP camp でも同様のアクティビティが行われており、コミュニティーの形成においてITPらしさを取り入れた好例といえる。

#### 4. おわりに

今回、ITPのDan O'Sullivan教授の計らいで、ITP Campに1ヶ月間参加することが出来た。この取り組みは、非常に柔軟な枠組みの中、世界中から集まった参加者がそれぞれの方法、それぞれの目的でその自由な研究・制作環境を楽しんでいた。また、参加者同士のコミュニティ形成にも成功していた。この1ヶ月間で、表層ではあるが、現在のITPで行われている授業内容のエッセンスを体験し、かつ各分野における現在のトレンドも知ることが出来たという点で、この取り組みの意義は大きいと感じた。日本の大学における社会人の受け入れ体制は、社会人入学及び社会人公開講座、生涯学習という形式を取っているが、実際には時間等の制約でなかなか大学に入学して学ぶに至らないことが多いと考えられる。このような現状から、ITP Campのような柔軟な方法により外部にオープンで遊び心があるオープンスクールを開催することも重要ではないかと強く感じた。社会人でも大学の環境で作業がしたい、大学で学ぶ機会がほしいという社会人や地域住民が気軽に大学を訪れ、大学の本来持つ学術的な側面からの知的好奇心の探求と参加者間のコミュニケーションによる情報共有の両面から刺激を受けることが可能な「開かれた大学」の場を提供するという点は一考に値する。ITP Campは、学位取得のためのプログラムではないため、日本の大学の社会人受け入れ体制と同一に比較することはもちろん出来ないが、気軽に大学という環境で物事を考え、作業する場を提供するという意義は非常に大きいと考える。

また、セッションを含むITP Camp全体の雰囲気が非常にゆったりとしており、自由な環境で学問に取り組めるため、新しい大学体験が出来たと私は考えている。来年も是非参加したいと思えることから、この試みは成功しており、3年目にして成果を出しつつある取り組みである。ニューヨーク大学でもITP Campの取り組みが評価されており、Tisch School of the Artsの他のプログラムでも同様の試みが今年から始められているようだ。

このような取り組みに参加する機会を与えてくれた明星大学に感謝すると共に、ITPの受け入れを許可し、さらにITP Campへの参加を許可してくれたDan O'Sullivan教授、George Agudow氏に感謝したい。

#### 参考文献

- [1] ITP Camp 2012 ウェブサイト. <http://itp.nyu.edu/camp2012/> (2012年10月12日アクセス)